

筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

9条の会 ニュース

NO. 18 2008. 7

名称：筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

郵便振替口座番号：00120-4-501101

発行責任者：茅野徳治：TEL / FAX 029-857-6593

〒305-0023 つくば市上の室1829-1

第6回講演と対話の集い

「地球温暖化問題と平和」

一戦争こそが最大の環境汚染、憲法9条こそ、地球環境の切り札一

2008年5月25日（日）に、大穂公民館で本会の第6回講演と対話の集いが、和田武氏、清野嘉之氏、歌川学氏を招いて行われ、約50人の参加がありました。開会のあいさつを世話人の山本千秋氏が行い「名古屋高裁判決、9条世界会議、世論調査の動向を挙げ、憲法をめぐる状況が発展している。戦争は最大の環境汚染で、憲法9条こそ地球環境の切り札ということで、今回の講演会を開いた」と発言しました。

基調講演として、「地球温暖化防止と再生可能エネルギーの普及～戦争のない平和な持続可能社会の構築を目指して～」と題して、和田武氏（元・立命館大学教授）が講演を行いました。講演は、次のように



和田 勉氏

4部に分けて行われました。

1. 地球温暖化の現状と未来予測 一人間の安全保障を脅かす地球温暖化・気候変動

2. 地球温暖化危機回避の条件 ー軍事安全保障から環境安全保障へー

では、

軍事活動や戦争も地球温暖化要因であるが、機密が多いのでデータとして、雑ぱくともになるとしながら、次のように明らかにした。

軍事活動での温室効果ガスは総量の約1

割（ブラウン、1991）に達する。その内訳は、軍隊の燃料利用3～4%、兵器生産のエネルギー利用6～7%である。例えば、キティホークは、20万ガロン（760kl）／日を消費している。

戦争での火災、復興のエネルギー利用による温室効果ガスの排出があり、 湾岸戦争では、732油田が炎上し約8ヶ月にわたって、数億～10億1/dの原油燃焼した。そこで、CO2が約5億トン排出された。それは、世界の年間排出の2.5%に当たる。イラク戦争ではイラク領内に展開した米軍は5.7万kl／日の燃料を消費し、CO2の排出は約15万トンになり、米国内の1%、日本の4.5%に相当した。日本のインド洋給油は01年12月～07年10月の間に48万kl行い、CO2で130万tに相当します。

軍隊のフロン、ハロン利用、オゾン層破壊による温暖化も問題です。 フロン、ハロンの排出と軍事衛星打ち上げでのHCl排出が問題です。オゾン層破壊による対流圏オゾン増加も温暖化も一因となっている。

と、軍事活動による環境破壊を明らかにした。

日本では、直接排出では、電力が28%で最大、その削減が不可欠。それなのに、中期削減目標を持ってない。一方、日本の再生可能資源エネルギーは豊富で、太陽光発電だけで電力の70～80%供給可能、結局、資源も技術力もあるが、効果的普及政策がない。たとえば、「目標達成義務化制度」がきわめて低い目標で、2010年まで利用目標量（義務量）として122億kWh（総電力比

で1.35%)でしかない。

日本では軍事費や道路特定財源を温暖化対策費に回すだけで大きな対策ができる。2008年度予算で、防衛予算4兆7426億円、米軍思いやり予算2083億円、総道路予算;7兆7869億円のうち道路特定財源4兆8626億円である。これらを見直せば十分に可能である。

3. 市民・地域主導の再生可能エネルギー普及とそれがもたらす社会的影響

再生可能エネルギーや省エネルギー設備は、小型で分散型が多いので、市民/地域主導での取り組みに適している。再生可能エネルギー普及は、より民主的で環境保全を可能にする持続可能な社会へと導く。

デンマークでは風力発電の80%が住民所有。風力発電電力を電気料金の85%価格で電力会社が買い取る買取補償制度などがある。

4. 持続可能な社会への変革

民主的環境保全主義社会＝「持続可能な社会」への変革が必要で、企業中心から市民中心の社会へ変革することで、民主的社会、平和で健全な社会になるに違いない。



清野嘉之氏

二番目の講演は、「地球温暖化緩和への森林の役割」と題して、清野嘉之氏(森林総合研究所温暖化対応推進拠点長)が行いました。講演では、森林に緩和の役割を期待するには?として、まず、再生可能な林産物を積極的に使う。森林の緩和力を生かす。森林は化石燃料代替えとして大きな削減力を発揮しうる。そのためには、森林の面積を確保するとして、熱帯林減少の社会的・自然的背景を説明した。特に、気温上昇を2℃程度の上昇にとどめることが大事として、それ以上になると、森林が大きく変化し、排出源となる恐れがある。白神山地のブナ林がなくなるシミュレーションを示した。

三番目に「CO2排出実態と排出削減推進について」と題して、歌川学氏(産業



歌川学氏

技術総合研究所エネルギー技術研究部門)が講演しました。講演では、中長期の大幅削減の必要性の中で、日本の排出実態を検証した。削減余地、対策の実施、対策の波及効果を示し、省エネ

で、3-4割削減し、再生エネルギーで、7-8割削減ができるとしました。230の工場、発電所で50%の排出を行っているの、そこに削減余地があることを直視しなければと訴えました。特に、自治体で模範例を作って企業、家庭に広げる必要があると強調しました。

閉会のあいさつは、世話人の松本栄次氏が行いました。(岡田安正)

5.25 講演と対話の集い

アンケート回答一覧

1. 今日の「講演と対話の集い」は如何でしたか、ご感想をお聞かせ下さい。

- ①素晴らしい報告を聞きました。感謝します。仕事を抜け出してきた意味が十分ありました。
- ②非常に良い、勉強になった。
- ③和田先生の話：つくばでも市民で風車できないものか。電気製品の金属など、リサイクルシステムがあつたらなと思えばかり、せめてエコに努めております。風車NPOできたら加わりたいです。
- ④良かった。
- ⑤温暖化を考える手立てを知ることができた。
- ⑥今話題のテーマで知らなかったこともあって、興味深かった。発電手段の市民所有という考え方も面白かった。
- ⑦和田先生のお話しはとても勉強になりました。軍事安全保障より、地球環境安全保障を優先するべきであるとか、再生可能エネルギーと市民運動、民主主義の発展、生産や社会のあり方にも

かかわる話で幅広く奥の深い話で、本当に勉強になりました。

- ⑧講演は大変よかった。質疑では、9条または平和との関わりを明確にして議事進行をお願いしたい。
- ⑨多岐にわたる興味深いお話を聞けました。平和と環境の関係がはっきりとはさせにくいとのことですが、ヨーロッパでは平和と環境がどちらも進んでいることは、示唆が与えられました。

2. 憲法9条についてのお考えがあればお聞かせ下さい。

- ①9条守ることが、日本のGlobalな役割であり、歴史的に日本がInitiativeをもって世界に貢献するものとなると考えます。
- ②今後とも戦争と環境・安全の関係を厳しく追及してほしい。
- ③存在して当然のもの。
- ④継続して9条を守る運動を進めていくことが必要である。「守る組織」の地盤を固め、世界平和や環境を守る運動に発展させていくことが必要である。

3. 今後、話を聞いてみたいテーマ、または、希望する講師がおりましたらご記入して下さい。

- ①「近隣アジア諸国の発展と日本の役割」—つくばの役割を中心に—。
- ②（これまですべての集いに出ていませんから、前に行われたかもしれません）「食料の安全と平和」ではいかが。
- ③第一次大戦の秘密外交の禁止、戦争の非合法化の大きな流れと、その後の問題について、どなたか詳しい方にお聞きできないかと思えます。

4. 憲法9条を変えさせないために、どうしたらよいと思いますか？

- ①9条の意義についてアピールを続ける。
- ②個人の生存・安全の問題としてとらえる（一人の生命を守れずに万人の生命は守れない）。
- ③「一国平和主義」を主張する（一国の平和なくして万国の平和なし）。
- ④メディアを積極的に利用して、若い人、政治に関心のない人をまきこむ。
- ⑤会員ひとりひとりが身近な人に訴える。

⑥いつも申しているのですが、情報公開の徹底が重要だと思います。

5. 筑波の研究所・大学9条の会へのご要望、ご意見などがありましたら、ご記入下さい。

- ①4年前に行政（農林）からつくばJIRCASに移り、単身赴任中です。情報を歓迎します。
- ②他の9条の会のをいただいていますので。今回のような企画を相互いろいろな9条の会、市民へ告知されて下さい。新婦人の会など。
- ③つねに宣伝し続ける必要がありますね。

以上

08年7月1日現在

賛同者数 820名 (0名)
() 内は前号以降の増加数

事務局だより

○賛同者数の訂正

前号 (NO.17) でお知らせした賛同者数を819名から820名に訂正して下さい。

○本会では「筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会アピール」への賛同署名を広くお願いしています。

<http://peace.arrow.jp/tsc/>
へアクセスしてください

○9条の会ニュース等の配布は、メールアドレスを登録されている方には電子メールで、それ以外の方には郵送しております。

○「会」へのお問い合わせは

・305-0023 つくば市上の室1829-1

茅野徳治

電話・Fax : 029-857-6593

・e-mail :

岡田安正 spc873x9@comet.ocn.ne.jp

堀田博之 zkodaly@nifty.com

原水爆禁止2008年世界大会・科学者集会

核兵器廃絶，恒久平和への思いを茨城・つくばから

日 時 : 2008年8月1日(金) 10時～16時
場 所 : つくば文化会館アルスホール (茨城県つくば市吾妻2-8)
TEL : 029-856-4311
参加費 : 一般 1000円、院生・学生 500円

基調報告 核兵器をめぐる危機とチャンス —核兵器と戦争のない世界にむけて—
木村 朗氏(鹿児島大学・平和学)

- 報 告
- ・海外代表による特別報告
 - ・被爆実験に即した原爆症認定基準へ
沢田 昭二氏(元名古屋大学)
 - ・原子力空母母港化問題とアメリカの世界戦略
今野 宏氏(元横浜国立大学)
 - ・研究室から「日米同盟」が見える・聞こえる
—沖縄の軍事基地再編と私たちの取り組み—
亀山 統一氏(日本科学者会議沖縄支部)
 - ・軍事が歪める原子力研究開発の現場 日本科学者会議原研分会
 - ・筑波研究学園都市での平和運動
岡田 安正(筑波研究学園都市研究所・大学関係九条の会)
 - ・茨城における日米共同訓練の強化
水野 秧一郎(阿見平和の会、茨城県平和委員会)

原水爆禁止2008年世界大会科学者集会実行委員会連絡先
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 茶州ビル9F
日本科学者会議気付け TEL 03-3812-1472